

2020 年度 アクティブ・ステューデント応援奨学金活動報告書

国際経営学部 国際経営学科

細野 侑璃

はじめに

この度は、2020 年度アクティブステューデント応援奨学金に採用していただき、誠にありがとうございました。私には、Hamper Drive というチャリティーイベントを日本でも成功させるという目標がありました。このような目標を掲げた動機は、高校時代に留学先のカナダでチャリティーイベントを開催した経験に基づいています。過去に自身が受けた差別の経験や、障害を持つダンサーとの交流をきっかけに、この分野に高い関心を持っており、大学在学中に日本でも同様のチャリティーイベントを開催することを志していました。このような背景から、2020 年度のアクティブステューデント応援奨学金に応募させていただき、本格的に日本でのチャリティーイベントの開催を目指していました。しかし、志願書を提出した 2020 年夏頃には回復に向かっていると思われた新型コロナウイルスの感染状況が 2021 年に入り悪化し、度重なる緊急事態宣言の発令によりイベントの開催は難しく、安全面も考慮した上で中止という苦渋の決断に至りました。このような逆境の中でも何かできることを実行したいと考え、祖父と同居しているという自身の生活背景から、可能な限りオンライン上や家の中で実行できる活動を探し、以下の取り組みをしました。

1. 「資格試験の取得」

コロナ禍のため、在宅にてオンライン講座の受講や独学での勉強に励みました。グローバルに活動できるよう、英語・中国語・韓国語の外国語資格、国際化に伴う観客の多様化や障がい者のスムーズなイベント参加への基礎知識や対応方法を取得するための資格、そして、障がいをもつ子供を対象に福祉関係や幼稚園・保育園、キッズダンススクールなどで療育インストラクターとして就労することのできる資格等を取得しました。

私が受験したのは以下の資格試験です。

- ・認定ダンス指導員初級
- ・認定ダンス指導員 2 級
- ・認定ダンス療育指導員
- ・ユニバーサルイベント検定
- ・HSK 中国語技能検定 2 級
- ・HSK 中国語技能検定 3 級

- ・ TOPIK 韓国語技能検定 I (初級)
- ・ TOPIK 韓国語技能検定 II (中級・上級)
- ・ TOEIC 国際コミュニケーション英語能力テスト

上記の試験は、現時点で結果が発表されたものは全て合格、または目標点数を超えることができました。(2021年11月26日時点)

特に語学の勉強は独学では難しいことが多く、教室に通うことも考えましたが、コロナウイルスの感染リスクや、今後の就職活動との兼ね合いを考え、独学で勉学に励みました。代替として、オンライン上で開催される勉強会や語学学習団体に参加しました。その中でも、選考を通過させていただき、アメリカ大使館の助成プログラムである学生交流団体に参加させていただいた際には、ハーバード大学をはじめとするアメリカの有名大学の生徒達とディスカッションをする機会がありました。彼らのレベルの高さや考え方に圧倒され、今まで以上に英語だけではなく、時事問題への学習意欲も高まりました。また、身近な国である韓国や中国の言語習得には以前から憧れを抱いていたにも関わらず、まとまった時間をとることができなかったため、今回の奨学金受給の機会、そして長期の在宅期間をきっかけに勉強を始めました。特に苦労したのは中国語の学習で、大学で中国語の授業を全て履修していなかったため、拼音や発音などを携帯のアプリや教材で習得しました。大学では、中国語ビジネスコミュニケーション論の授業が中国語の授業を履修していない生徒にも開講されていたため、2年間中国語を学習してきた生徒達の中で授業についていくことは容易なことではありませんでしたが、先生や友人のサポートもあり、中国語でのプレゼンテーションも成功を取ってAの成績をいただくことができました。このような学習を続け、結果的にHSKの2級と3級を取得することができました。韓国語に関しては、以前から韓国へ渡航してダンススクールに通った経験があり、留学先での韓国人との交流や、韓国のコンテンツを見る機会が多かったことから基礎知識があったため、独学で文法と単語を覚えて試験に臨みました。まだ結果は出ていませんが、作文問題に苦手意識を持っているので、今後も継続的に勉強していきたいと思っています。認定ダンス指導員、認定ダンス療育指導員、ユニバーサルイベント検定の学習に関しては、殆どの設問が講義内容・テキスト内容の暗記問題であったため、自分が興味のある分野を楽しみながら学習することができました。今回は全ての講義がオンラインで行われていましたが、本来であれば資格保有者への実践講義やスポーツブランドとのタイアップイベントなども充実しているようなので、コロナウイルスが収束した際にオフラインで開催されることを楽しみに、今後もさらに多くの知見をつけることができるよう、多方面にアンテナを張りながら学習を努めて参ります。



2. 「東京都環境局若者アンバサダーとしての活動」

このような活動を始めたきっかけは、高校時代に留学していたカナダの学校や、国際経営学部の授業で度々SDGsについて学ぶ機会があり、全世界の人々が共通の目標設定をすることに大きく心を動かされたことです。こちらの活動も、4月にプレスリリースがされる予定であったものの、東京都がコロナウイルスの対応に忙しく大幅にスケジュールが遅延し、結果的に2021年11月時点ではオンラインでの活動のみとなりました。しかし、SDGsを若い世代にわかりやすく発信し、若者と企業・行政の掛橋になるだけでなく、多様性・多面的な視点を持つ社会起業家として世界で活躍するために、最前線で活躍されている専門家の方達の講義を毎週楽しみながら受けさせていただいています。日々新しい課題や学びを発見しながら学ばせていただける環境に身を置かせて頂くことができ、とても光栄です。

また、多忙を極めておられる中、小池百合子東京都知事から応援メッセージを頂きました。

<https://youtu.be/5RqupxLYbf4>

SDGsで掲げられている17のゴールには、豊かな世界の実現を助長する目標の中に、「平等」な社会を実現するためのゴールが沢山設定されています。私は将来、人種、世代、性別に関係なく、すべての国の人々が言語の壁を越えて自分の才能と違いを平等に認め合うことのできるプラットフォームを作成する、またはそのような事業の一助となるというビジョンを持っています。このビジョンを実現するための第一歩として、Hamper Driveのイベントを成功させたいという思いが強くありました。世界的に大々的に掲げられているSDGsも、私の周囲の体感ではありますが、まだまだ日本にはSDGs自体を知り、実際に取り組んでいる学生は物凄く少ない印象があります。このように活動させていただける機会を通して、地球の環境問題をできる限り多くの方に広め、一步でも解決に近づけられるような活動をしたいと思っています。未熟な一学生として出来ることは少ないとは思いますが、素敵な場で専門家の方から講義やご助言をいただきながら、1人でも多くの方がゼロエミッション

に関心を持っていただけるよう、日々勉強に励んでいます。



The screenshot shows a website header with the logo 'DO!Nuts TOKYO' and a 'Join Idea Meals' button. Below the header is a profile picture of a woman, Rieko Hoshino, holding a dog. To the right of the photo is a bio in Japanese. The bio mentions her role as a club president, her studies at the University of Tokyo, and her involvement in environmental and social issues. It also includes a '自己紹介' (Self-introduction) section where she discusses her passion for addressing environmental and social problems through food and her work with 'SEE THE SUN'.

<https://donutstokyo.org/articles/newsevents/1489/>

3. 「大手製菓会社新規事業への参画」

上記の活動をきっかけに、森永製菓のコーポレートベンチャーである株式会社 SEE THE SUN の新規事業に長期インターン生として携わらせていただけることになりました。株式会社 SEE THE SUN の代表である金丸美樹さんは、食を媒体として社会課題にも気軽に取り組めるようになる持続可能な世界の創出を目指し、さまざまな社会課題の解決に向けた事業を展開しています。私は株式会社 SEE THE SUN の新規事業であり、「ワクワク」と「好き」が詰まったテーマパークのようなプラットフォームとして、作り手と生活者の新しい関係性の実現や、誰もが社会課題の解決にむけてプロジェクトを立ち上げたり、気軽に参加したりすることで社会課題の解決にむけて一歩を踏み出すことができる OUR TeRaSu というクラウドファンディング事業に参画させていただいています。個人の価値観や社会の課題が多様化・複雑化している現代で、楽しみながら社会課題の解決や新しい価値の創出に取り組んでいる金丸さんに感銘を受け、金丸さんのもとで様々なことを学ばせていただける環境に身を置けていることをとても光栄に思っています。個人的に森永製菓研究員の鈴木みくさんによるおやつの開発プロジェクトにも参加し、「日常芋飯事」という製品の開発に関わらせていただきました。この製品は、鈴木さんが第一子育児中に乳腺炎になりかけ、楽しみにしていたお菓子を禁止された際に感じた「さつまいもを使って、日常の小さな幸せに気づくきっかけになるようなスイーツを開発しよう」という日常生活とおやつへ思いから始まりました。逆境に置かれた経験から全ての人に向けて製品の開発を進めていく鈴木さんの姿に心を打たれ、私自身もさらに多くの人が生きやすい環境を作る事業へ貢献したいという思いが強くなりました。商品形態や味、商品名、パッケージなど、多くの決断に関わらせていただいただけではなく、インターン生としても商品やイベントの広報や、バナー

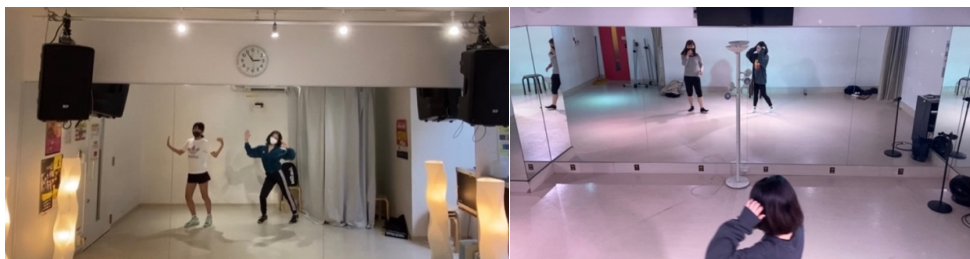
デザインなど、多くのことに挑戦させていただきました。これらの事業には各業界の最前線で活躍されている方々が参画されており、プロジェクトの中で幾度となく感銘を受け、私自身の「理想の姿」が明確に形成されました。今後も素敵な事業に携わらせていただく中で多くのことを学び、全ての人が平等に楽しむことができるだけでなく、次の世代にも楽しんでもいただけるサステナブルなフードシステムの構築に少しでも貢献できるよう、精力的にチャレンジしていきたいです。



4. 「次世代の学生達への SDGs 学習・事業立案サポート、個人レッスン」

自分自身の学習や成長だけでなく、少しでも次世代の学生達の役に立つことができな
いかと考え、全国の高校生が社会課題を解決するアイデアを生み出す探究型プロジェクト
「SDGs(持続可能な開発目標)放課後プロジェクト」に大学生メンターとして参加させてい
ただいています。manabaを通じて募集がかかっていたこのプロジェクトの概要を読み、学
外の活動で SDGs を孕む社会問題やアイデアマッチングに対して多くの時間を使っている
私が助けになれるのではないかと考え、このプロジェクトに参加させていただくことにな
りました。私が配属された班では「若者の政治に対しての関心を上げる」というテーマで精
力的にプロジェクトを進めています。全国から学びを求めて集まった高校生たちが ICT を
通じて交流し、意欲的に学習している姿を見るたび、新しい時代と大きな希望を感じるとと
もに良い捉え方での焦りを感じています。一学生である私にできることは限られているか
もしれませんが、できるだけ多くの知識を補完し、サポートしていけるよう、これからも多
くの知識をつけていき、教えるだけでなく自らも学ぶ姿勢で向き合っていきたいです。
また、新型コロナウイルスの感染拡大以前にチャリティー活動の一環として開催していた
ダンスレッスンに関しては、今回の緊急事態宣言下では機会の平等性という観点から、「県
外からいらした学生さん」という条件に当てはまった方のみに、無償で個人レッスンを開講
しました。コロナ禍以前は 20~30 人ほどの規模で開催していましたが、今年は感染リスク
を考慮し、初めて個人レッスンという形で開講させていただきました。一名が群馬県の中学

1年生、もう一名が岐阜県の大学2年生で、感染対策をしっかりと環境下でレッスンを行いました。奨学金受給前の選考段階では、「チャリティーイベントやレッスンで集めることができた資金を、子供たちをサポートする団体に寄付させていただく」という形で発表させていただきましたが、イベントの開催も大人数でのレッスンの開講もできなくなった状況下での実施は難しいと考え、今回は無償でレッスンをさせていただきました。今回のレッスンをきっかけに、ダンスやチャリティー企画への関心を持っていただけたら嬉しいです。



最後に

2020年度の活動を通して、正直な感想を表現するならば、「悔しい」という気持ちがとても強いです。私が本来予定していたイベントはもちろん、従来の年度であれば、多くの場所に足を運び、多くの人々の話を聞き、学生のうちにしか経験することのできない多くの学びを得ることができたのではないかと変える事のできない現実から目を背け、本来叶えられていたはずの理想を想像してしまいます。私自身の家庭の事情もあり、ここ2年間は極力外出を避ける努力をしていたため、有り余る1人の時間から内省や無念を感じる事が多く、自分との戦いが多い期間であったように感じます。しかし、自分が置かれた環境下でできることは、全て成し遂げることができたと考えており、今後の人生でも、置かれた環境で自分ができることを考え、動き出して得たこの経験は財産になると信じています。中央大学国際経営学部の活気ある生徒達の中からこのような素晴らしい挑戦の機会をいただき、思うように理想を叶えることはできなかったものの、逆境の中でも工夫と行動力を駆使し、自分のビジョンを叶えていくことの大切さを学ぶことができました。今後も日本だけではなく、世界で活躍し、人の役に立てるような人材になれるよう、精進して参ります。